

第5回 2025/ 2/14(金)~2/16(日) 学生19名

②交流イベント（新町会館）

新町会館での交流イベントでは、**学生自身が考えた**「巨大すごろく」「お菓子デコレーション」等で過去最高の参加人数で盛り上がりました。雪かきなどを少しお手伝いしましたが、冬の暮らしの困難さも感じました。

③交流イベント・ワークショップ

地域行事『三代交流会』に参加して、輪投げ大会などで交流を深めました。昼食のおでんづくりも豊川地区の女性会の皆さんと行い、約100名でおでんを食べながら交流しました。また、前回に引き続きワークショップを行い、「豊川地域のいいところさがし」を通じて**祭りや豊かな自然など魅力**を沢山見つけることができました。



今回の活動につなげるポイント
一緒に企画を考えることなどを通じて、
現地に行く前から学生メンバーの仲を深める

現地ボランティア報告会 2025/ 3/4(火)

1年を振り返り、学生ボランティアが被災地支援に関わる意義や、活動を通じて見えてきた**成果や課題**を共有するとともに、参加者の皆さんとも、**私たちにできることを共に考える**機会として開催しました。

活動報告やパネルディスカッションを通じて学生自身が活動の経験や意義、現地の状況を発信した後、「能登半島地震から考える 私たちができることは？」というテーマで参加者の皆さんも交えて意見交換をしました。

参加者からは、「学生の取り組みを聞いてとても刺激を受けた。熱い思いや行動力に敬意を表するとともに、**自分も関心を寄せ続けたい**と思った。」などの感想が述べられました。



【意見交換で出た話題・アイデア】

- ・能登に触れる機会を作り、発信し続ける
- ・現地活動している人を西宮に住んでいる人たちで応援する
- ・地域づくり、防災でのつながりなどを西宮市内でも持つ



2024年度 関西学院大学 能登半島地震現地ボランティア活動報告

なぜ、現地ボランティアに取り組むのか？

私たちの活動の目的は、被災地に元気を届けることだけではなく、参加学生が活動を通して**自分たちの専攻に関わる学びを得ること、学内に関心を広げること**を目的としています。参加学生は、被災や被災者の「現実」を知り、振り返りを通じて自分が学ぶ学問と実践のつながりを考えるきっかけを述べていました。

今回の活動の目的はさらに、関心が薄くなってきている能登半島地震の現状を活動に参加した学生たちから伝えてもらうことで、一人でも多くの学生・教職員が**被災地や被災者に思いをはせ、支援していく雰囲気**を大学内で広げていきたいというものです。これからさらに多くの方々が、参加学生たちの声に触れられるよう、2025年度も継続して活動を行っていきます。



ヒューマン・サービス
支援室長（社会学部教授）

せき よしひろ
関 嘉寛

活動概要

2024年1月1日に発生した能登半島地震を受け、
関西学院大学は「募金活動」と「現地ボランティア活動」を実施しました。

【募金活動】

2023年度卒業式・2024年度入学式にて学生36名で呼びかけた募金活動では585,862円を集めました。集めた寄付金は宗教活動委員会を通じて
日本赤十字社（義援金）・NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク（支援金）に送付しました。

【現地ボランティア】

2024年5月からは、**5回にわたって石川県七尾市中島町を中心に訪問**。
学生延べ72名、教員3名が支援にあたり、現地の仮設住宅周辺にある集会所での交流やコミュニティセンターでの地域交流、水や塩分タブレットを届けるなどのボランティア活動を実施しました。今後の展望としては、活動の記録を残し、多くの学生・教職員に活動内容を知ってもらうためにSNSなどの広報媒体を通じて積極的に発信をすることを考えています。

場所：石川県七尾市

- ①中島地区第1団地（仮設住宅）／新町地域
- ②新町会館（自治会の集会所）
- ③中島地区コミュニティセンター豊川分館 など

宿泊：国立能登青少年交流の家

内容：①仮設住宅への戸別訪問

②交流イベント

③地域住民とのワークショップ
地域行事への参加 など

連携：NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク、のと復興人足隊
西宮市社会福祉協議会、豊川地域協議会

協力：株式会社 高山堂



発行：ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室

電話 0798-54-6061

メール kg.hssso.info@kwansei.ac.jp



活動の詳細や
現在の活動状況などは
HP・SNSより最新情報をチェック！

第1回 2024/ 5/25(土)～5/26(日) 学生12名、教員1名

①戸別訪問

新町会館でのイベントのお知らせも兼ねて、日常のお困りごとなどをお聞きしました。**たわいもない会話がみなさんの心をほぐす**ことに繋がるということを学んだ一方で、**支援疲れ**がみえる方もおられ、ボランティアの在り方について考えさせられました。

②交流イベント（新町会館）

新町地域の住民の方々と仮設住宅の方々と茶話会や子どもたちと遊んだり、交流の機会を作ることで、**コミュニティ形成の一助となる**必要があることを実感しました。



今回の活動につなげるポイント
仮設訪問での会話のツールを用意する

第2回 2024/ 6/22(土)～6/23(日) 学生12名、教員2名

①戸別訪問

飲料水や手作りうちわをお届けしたことから会話が広がりました。「汚いような気がして水道水を飲むことに抵抗があるので助かる」「夏の暑さが不安」など**ストレスのかかる暮らし**を強いられていることを痛感しました。

②交流イベント（新町会館）

地域の皆さん同士の会話が生まれるように心がけました。一方で、**男性のイベント参加者が少なく、チラシやイベントの内容について工夫**ができると良いのではないかとという提案ががありました。



今回の活動につなげるポイント
男性参加者を増やすためイベントを工夫する

第3回 2024/ 8/6(火)～8/8(木) 学生14名

②交流イベント

そうめん流しや写真立てづくりを通して交流しました。将棋部の学生も参加してより白熱した将棋対決を行う、けん玉など昔懐かしい遊びを行うなどを通じて、**前回よりも多くの男性の方と交流**することができました。中島小学校の学童保育にも参加し、子どもたちと思いに残る時間を過ごすことができました。参加者にも名札をつけてもらうことでお名前を呼び合う交流ができて良いのではないかとこのアイデアも出しました。

★輪島市視察

火災が発生した輪島朝市を目にして、復興はまだこれからで、**関心を持ち続けることが大切だ**と感じました。



今回の活動につなげるポイント
参加者にも名札を付けてもらう

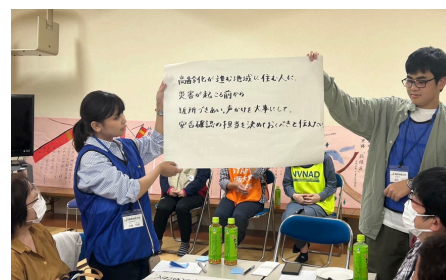
第4回 2024/ 10/11(金)～10/13(日) 学生15名

②交流イベント（新町）

世代を超えて皆が参加できるイベントとして、ビンゴ大会を行い、参加者と学生で一体感のある場ができました。「**関学生が来るのを待っていた**」と言っていたが、継続的な関係性ができたことを感じました。

③交流ワークショップ（豊川地区）

初めての試みとして、豊川地区の皆さんと「今だから考えるべき将来の起こりうる災害に備えて」をテーマにグループに分かれて話し合いました。**日常のつながりがあるほど、支え合える**ことを学びました。次回以降、一緒にイベントを行ったり食事を一緒にとったりしてより関係を深めたいなどのアイデアも出しました。



今回の活動につなげるポイント
豊川地区での地域行事へ参加する
交流会を継続的にし、関係性づくりを行う